

## 令和8年度病害虫発生予察情報 特殊報 第2号

令和8年6月4日  
広島県西部農業技術指導所

- 1 害虫名 レンコンネモグリセンチュウ (*Hirschmanniella diversa* Sher)
- 2 発生作物 レンコン
- 3 特殊報の内容 県内におけるレンコンでの発生を初確認
- 4 発生経過
  - (1) 令和8年3月9日、県内にて、収穫中のレンコンの表面が黒く褐変する症状が確認された。広島県立総合技術研究所農業技術センターが被害のあったレンコンの細根及びほ場の土壌を採取し、ベルマン法を実施したところ、細根0.4g当たり2.0頭、土壌20g当たり10.7頭の線虫が分離された。分離された線虫の同定を佐賀大学に依頼した結果、レンコンネモグリセンチュウ (*Hirschmanniella diversa* Sher) (以下、レンコンネモグリと記載) と判明した。
  - (2) 広島県内において本線虫による被害が確認されたのは今回が初めてである。
- 5 国内の発生状況
  - (1) レンコンネモグリは、平成14年に国内初の報告がされ、これまでに複数の発生確認の情報がある。
- 6 本害虫の特性
  - (1) レンコンの表面部分に褐色～黒色の不定形斑点や不規則な凹凸が生じる。本症状が発生すると、品質の低下により規格外品が増加し、収量の減少につながる。
  - (2) 本症状はレンコンネモグリの寄生・加害によって引き起こされる。レンコンネモグリは年一化性で、4～5月に交尾・産卵し、8～9月に孵化、11月までに多くの個体が成虫あるいは4期幼虫となり、根部や土壌中で越冬すると考えられている。茨城県の報告では、レンコンネモグリのハス細根内の発消長は、9月をピークとした一山型を示したとの報告がある。
- 7 防除対策
  - (1) レンコンネモグリは乾燥に弱いため、使用した農機具や資材は洗浄して泥を落とし、乾燥させる。また、ほ場での発生の有無により、使用する農機具等を分ける。
  - (2) イネ科雑草やミズアオイ等でレンコンネモグリの寄生が確認されているため、ほ場内外の除草に努める。
  - (3) 健全な種バスを使用する。
  - (4) 畦畔の整備や水路の補修・管理を行い、水口以外からの水の移出入を防ぐ。
  - (5) 植付前に石灰窒素を施用する。
  - (6) レンコンネモグリに登録のある粒剤を散布し、散布当日に混和する。
  - (7) 早堀り(肥大後期～肥大終了期)を行う。
  - (8) 収穫後、残渣を除去する。



図1 広島県で確認されたレンコンネモグリセンチュウの被害



図2 レンコンネモグリセンチュウの雌成虫  
(出典：佐賀大学 吉賀原図)

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先  
西部農業技術指導所（植物防疫チーム）  
（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-420-9662）  
広島県立総合技術研究所 農業技術センター生産環境研究部  
（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-429-0521）  
農林水産局農業技術課  
（〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話 082-513-3559）

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>